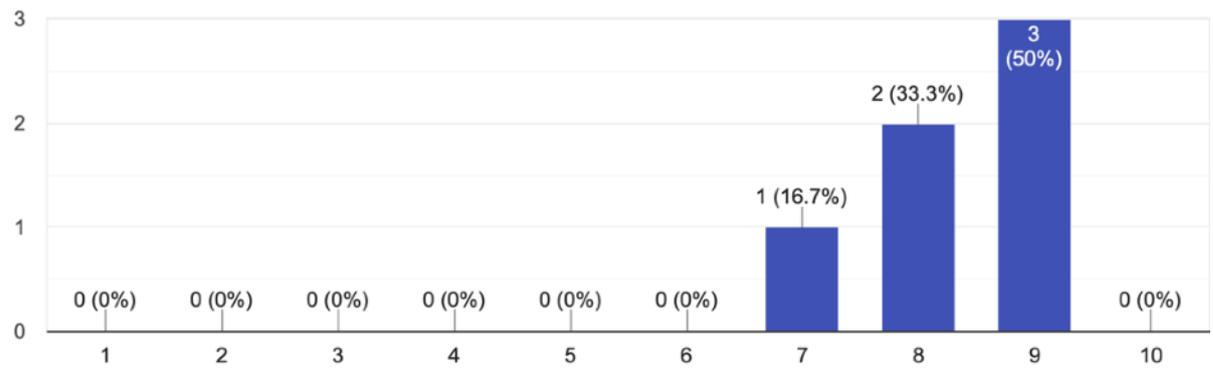


全体を通して10段階で評価すると

6件の回答



評価アンケート

「人魚の恋の殺し方」 <https://kakuyomu.jp/works/16818093082084599587>

お名前 *

宣伝またはサンプルとして貴方の回答を利用してもいいですか？（利用許可を与える相手は、「竜の目書き結社」および「mee」となります） *

OK

だめ

その他:

全体を通して10段階で評価すると

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

良かったところ

短編として非常に完成された文章だと感じました。ところどころにぞくっとするような生々しさがあり、読後感がどっしりしつつ爽やかなのがとても良かったです。

誤字脱字

直せそうなところ・引っかかったところ

意図的なものかもしれないと思って、良くも悪くも感じたのですが、婚約は現代日本においてはあまり一般的ではないため、どんな地方のどんな海なんだろう、と少し気になりました。ただ、それも含めて「絵本の世界だと思っていた」という感覚の共有になり、しっくりくる感もあります。あと、これはただの私のわがままですが、描写がとても美しいのもう少し海と陸の差に関する描写が見たかったな、という気がしました。

タイトルいつも悩むので案があったら提案いただけると嬉しいです！

原題で最適だと思いますが、あえて自分のセンスで考えるなら「水平線まで届かない」「色違いの葬列」「彼女はナイフを持たない」等でしょうか。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

評価アンケート

「人魚の恋の殺し方」 <https://kakuyomu.jp/works/16818093082084599587>

お名前 *

宣伝またはサンプルとして貴方の回答を利用してもいいですか？（利用許可を与える相手は、「竜の目書き結社」および「mee」となります） *

OK

だめ

その他:

全体を通して10段階で評価すると

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10



良かったところ

- ・大きくヒレを蹴って上がる
当初は、ヒレは蹴らないだろう、くねらせるの誤りかな？と思ったのですが、読み進めて行くとあの時点でもう人間の足になってたんだ！と気づける良い伏線的描写だと思いました。
 - ・藻でぬめついた木の感触に力を込めて
質感がしっかりと伝わってきて、良い描写だと思いました。こういったものがあることで、世界の解像度があがるのを感じます。
 - ・どうやって、と聞かれても...
分かりやすい例えで良いと思いました。
 - ・僕からすると、君はまるで魔女...
・わたしは、一步距離を置いた空想か幻想か何か...
彼がわたしのことをどう考えていたのか、ものすごく分かりやすい描写だと思いました。
 - ・人間という生き物の迂闊さを楽しんでいた。
彼が言うところのわたしの魔女らしさが説得力をもって描かれていて、じわじわと効いてくる描写だと思いました。
 - ・少し痛いな、と思った。
物理的に体が船の壁に打ち付けられて痛いことはもちろん、心情的な痛みの意味も含まれているのではないかと感じられる良い描写だと思いました。
 - ・人間の一人称にバリエーションがあることを知らなかったこと
彼以外の人間との隔絶した関係が感じられて良い描写だと思いました。
- ここまでで分かりやすい、という書き方を何度かしましたが、腑に落ちて登場人物の思考の軌跡を理解でき、なるほどあの感覚か、質感か、考え方か、感情かと思わせるような描写が随所にあり、読んでいて気持ち良かったです。
- 恋する相手に半身が変わるという設定が、物理的にその恋が終わっていないことを表す仕掛けも残酷で良いと思います。
人間は自分の気持ちが今どうなのか目に見えませんが、それがヒレとして可視化されることで恋心を証明されてしまう設定を活かし切った面白い小説でした。
また、最後のやりとりが好きです。
私は、気持ちというものが早々に変わることは難しいと考えているのですが、絶妙なニュアンス、やりとり、感情の揺らぎを裏付けるヒレの変化が憎く、読んでいて体温と同じ水に浸かっているような感覚がしました。
彼が優しい物語の主人公のように誠実で丁寧で繊細な、わたしが恋をし続けるのにふさわしい人物だと思われる描写と、優柔不断で不誠実、無責任だと感じる描写がくるくるとかわるがわる現れて彼の人格としての深みがあるように思います。
丁寧に描かれた痛みが心地いいお話だと感じます。
-

誤字脱字

直せそうなところ・引っかかったところ

以下、好みの問題だと思うので、必ずしも修正の必要はないと考えています。

- ・水泡が上がってゆくを見ていた。
「ゆく」という表記は私も好きで表現としてありだと考えていますが、直後に「沈んでいく」ともあり、表記揺れとも捉えられるなと考えました。また、ここでだけ「ゆく」のため、冒頭に特別感、力み具合を感じる気がします。
 - ・追いかけて続けたのが我らが
私は「が」が2連続であるので、リズムに引っかかりを覚えました。「追いかけて続けたのが、我らが」のように個人的には読点を入れたくなります。
 - ・イソギンチャクにくねくねされたのは一度や二度ではなかった。
私は、付近にイソギンチャクがたくさんいるか、主人公にはイソギンチャクとの接点がたくさんあるのだろうか...?という印象を抱いてしまい引っかかりを覚えました。
イソギンチャクに何度も止められたというより、イソギンチャクを含めいろんな生物に何度も止められたということではないだろうかと思ったのですが、止めたものの代表としてイソギンチャクを挙げた表現とも捉えられます...。
特に他の方も引っかかっていなければ、問題ないと思います。
ただ、イソギンチャクにくねくねは、ちょっとグロテスクな感じがしてお話の雰囲気とぴったりですし、いやいややめときなさいと首を振る動きにも似ていて絶対削って欲しくないと思う描写です。
 - ・君にはそうとは
一瞬、「キミニハソウトワ、君に話そうとは」かと読み間違えてしまい、私は読みづらさを感じました。
個人的には「君には、そうとは」と読点を入れたくなります。
-

タイトルいつも悩むので案があったら提案いただけると嬉しいです！

タイトル難しいですね…。私も登場人物の名前も含めいつもなかなか決められず、人に決めてもらうことが多いです。

今のタイトルが十分素敵だと思いますが、思いついたものを挙げておきます。

人魚のヒレ型恋愛考
ブロークンマーメイドの証明
彼と人魚の失恋定理
泡にならないこの恋は

キーワードとして人魚、ヒレ、恋の要素を含めたもので、かつ、お話全体にわたしの恋心についての揺らぎを見つめる研究のような雰囲気漂ってる気がしたので、論文や定理の名前っぽくしてみました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

評価アンケート

「人魚の恋の殺し方」 <https://kakuyomu.jp/works/16818093082084599587>

お名前 *

宣伝またはサンプルとして貴方の回答を利用してもいいですか？（利用許可を与える相手は、「竜の目書き結社」および「mee」となります） *

OK

だめ

その他: _____

全体を通して10段階で評価すると

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10



良かったところ

- ・人魚が恋をするとひれが変わるという設定が素敵です！
- ・主人公の人魚がかわいかった.....
- ・婚約者がいるとわかってから、悲しく失恋して終わるのかとドキドキしていたのですが、そうではないところが面白かったです
- ・わかめで作ったポーチがかわいかったです

誤字脱字

誤字脱字と思ったところはありませんでした。

直せそうなところ・引っかかったところ

街でのエピソードも気になりました。(そこまで書いてしまうと長くなってしまいますが...!)

タイトルいつも悩むので案があったら提案いただけると嬉しいです！

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

評価アンケート

「人魚の恋の殺し方」 <https://kakuyomu.jp/works/16818093082084599587>

お名前 *

宣伝またはサンプルとして貴方の回答を利用してもいいですか？（利用許可を与える相手は、「竜の目書き結社」および「mee」となります） *

OK

だめ

その他: _____

全体を通して10段階で評価すると

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10



良かったところ

【せいぜい数十年の寿命差】→ここに【せいぜい】を使うところに人魚の特異な時間感覚が感じられます。また、途方もない寿命でも不老不死でもなく、数十年長い程度というのも、このお話を成り立たせる上で絶妙なラインだと思います。

人魚の恋・寿命差・異種恋愛・人間の姿を得る.....題材としてはありきたりですが、ただ口マンチックに描くのではなく、これらの要素を再解釈してリアリティを持たせた話にしているところが良かったです。

特に、ヒレは恋した相手に合わせて変わる（なんらかの祈りや魔法によってではない。相手は人間に限らない）、恋が尽きるまで変わらない、という設定は非常に面白いです。

恋をしている間、ヒレは元に戻らない.....。ヒレは嘘を付けないということでもあります。だから結婚できないと分かった後でも、足を見せるべきか否かと葛藤も生まれるし、自分の本心（この恋を諦めていない）が明確になる。お話のキーアイテムとして有効に使われていたように思います。

【人間という生き物の迂闊さを楽しんでいた】→好きフレーズ。ちょっとゾワツとする。

彼が人魚を【別の生き物】と思って接していて、人間の世界や自身について多く語らなかったことが、人魚の恋を長続きさせていたって.....切ない.....。無知は恋の妙薬、確かにそうかもしれない。深く知ってもなお好きでいられるとは限らないから。

怠け者の漁師のキャラクターが好きですね。好きになった彼とは感じの違う人間。人魚も初めは無遠慮に感じたかもしれないけど、別れ際には好印象を抱いているように思える。「俺が新しい靴を買うよ」と言ってくれそうなのも分かる。

最後に泣いてしまう場面、やっぱりまだ好きってことじゃない.....？ そんなきっぱり断ち切れるものじゃあないもんね.....。陸に上がって、人間の世界を見て色々知って、恋を殺すことができると思ったのかもしれない。

これは憶測だけど、「そんなのいいから俺が新しい靴を買うよ」と不安を吹き飛ばしてくれそうな怠け者の彼もいいけれど、「左右違いの色を目印に、君を探す」と寄り添ってくれる返答が、やはり二十年以上も恋してきた彼らしさで、恋を殺そうとしたけど【やっぱり失敗だった】ってことなのかなと解釈しました。色を揃えた新しく綺麗な靴じゃなくてもいい、人間の世界を分からないながらも拾ってきた靴ごと受け止めてくれる彼が、改めて愛おしく感じられたのではないかと。

叶わぬ恋の話なのですが、悲壮感でずんと重い雰囲気にするのではなく、彼が変わらない優しさで救われる温かさがありました。いつか恋が尽きる日が来るかもしれないし、それより早く寿命が彼を奪うかもしれない。そういう将来まで想像させてくれる美しいお話でした。めっちゃ好き。新解釈の人魚譚。

誤字脱字

船上に上がった→重言かと思ひます

直せそうなところ・引っかかったところ

恋をしている間、父のヒレは深海ナマコのものになったのだろうし、祖母のヒレはシーラカンスのものになったのだろう。彼ら異種と人魚は寿命の長さが違うので】とあり、今度は水棲生物間であっても異種として扱っています。設定に矛盾がある.....？

【一つの合図にして、していない待ち合わせ場所へと急いでいた】→ちょっと意味が分からなかったです。誤字でしょうか.....？

【好きな種族のものに変えちゃう】→自分の意思でコントロール・変化させている言い方ですが、【なぜ髪が伸びるのか、爪が伸びるのか、やけどをすると赤くなるのか】と列挙されているのを見るに、体が勝手に変化するのではないのでしょうか。矛盾しているかも.....？

【だが人間の足を得たことで、突然彼の目の前に姿を現してしまった】→表現したいことは分かるのですが——彼にとって非現実的な存在だったにも関わらず、人間の足を得たことにより現実味を帯びた存在になってしまった——【突然彼の目の前に姿を現してしまった】は野暮ったく感じました（そもそも前から姿見せてるじゃんってツッコミも入りそう）。

何かもっと詩的な・象徴的な表現であると、二人の認識のすれ違いがより切なく感じられると思うのですが.....。

【人間の足はわたしたちを一步近付けたはずなのに、今の距離はひどく不適切に感じられた】とか？ でもこれ人魚が後悔しているように見えちゃう.....おそらく人魚は変化をありのまま受け入れているし、別に困りもしないと言っているから、後悔はしていないと思う。この場面、異種ゆえのすれ違いを描いていて重要だから、言い方一つで、もっとグッとくる場面になると思うんですよね.....！

【靴をね、履いてみたいんだけど、どう持ってきたらいいのか分からなかったの。左右の色が違うの。わけわかんないでしょ？】→謎の多いセリフですね.....。ポーチから靴を取り出した？【どう持ってきたら】というのはどういうこと？ 靴は左右の色が揃っているものと知りながら、どうして違う色の靴を持ってきたの？ 新しい靴を買ってほしくて？

せっかく【人魚・深海・恋】といったワードが出てくるお話なので、人魚の率直な心の声も残しつつ、もっと詩的な雰囲気での地の文が加わったら更に楽しめそうだと思います。

タイトルいつも悩むので案があったら提案いただけると嬉しいです！

この作品にはピッタリ合ったタイトルだと思いました！
七五のリズムになっているのも良き。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

評価アンケート

「人魚の恋の殺し方」 <https://kakuyomu.jp/works/16818093082084599587>

お名前 *



宣伝またはサンプルとして貴方の回答を利用してもいいですか？（利用許可を与える相手は、「竜の目書き結社」および「mee」となります） *

OK

だめ

その他:

全体を通して10段階で評価すると

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>							

良かったところ

恋の物語でありながら、周囲や家族との関係性を、濃すぎず、けれどしっかりと描いているところに好感を持ちました。深海ナマコに恋をして、そして娘が失恋してなお人間に会いに行くことを止めない親子、すごく良いなあと純粋に思いました。

人魚の足が解けたのを見たうえで、「他の人間も既婚者だ」という青年について、傷つかないようにという配慮と残酷さがあってすごく好きな一面です。足が解けて、恋が終わりつつあるけれど、他の人に恋をしても、という一言、これ自分では絶対出せない一言で、青年と、そして人魚とヒトの決定的なちがい、無理解さというか、違うものと話をしている、けれどやさしさのラインは人間側。と様々なことを想像して、とても好きです。

「違う」けれど「似ている」けれどやはり「違う」が、人魚主観でここまではっきりかけるのだと読んでとても感心しました。

誤字脱字

特に見当たりませんでした

直せそうなところ・引っかかったところ

この文章だけでも十二分に想像つく・我々に余地を与えている、という描写としてこのままでもいいのですが、この流れだけだと「喧嘩したり」「起こったり笑ったり」の二人があまり想像がつかず、どのような会話をしたり、喧嘩をしたのか知りたかったところがあります。

タイトルいつも悩むので案があったら提案いただけると嬉しいです！

恋の足跡

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

評価アンケート

「人魚の恋の殺し方」 <https://kakuyomu.jp/works/16818093082084599587>

お名前 *

宣伝またはサンプルとして貴方の回答を利用してもいいですか？（利用許可を与える相手は、「竜の目書き結社」および「mee」となります） *

OK

だめ

その他:

全体を通して10段階で評価すると

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10



良かったところ

- ・『砕けた小泡の群が東の方角に見えたのを一つの合図』：この文章だけでは「？」となっていたのですが、すぐ後に『小泡の主が彼であるとは限らない。この海域を通る船は』と出てきて、スッキリ。アハ体験で脳が楽しくなる。
- ・『「まあ、そうだ。海に生きるきみたちに、海域の制限がどうか、今年の税金のパーセントがどうか、そんな話をしたってしょうがない感じがして」』：現実と空想の断絶がよくわかる表現いい
- ・『大量の涙で海の嵩をすこし引き上げたのが』：表現がいい

個人的スキポイント

- ・『イソギンチャクにくねくねされたのは』：イソギンチャクくねくねカワイイ
- ・『異種に恋をするのはある種わたしたちの特権でもある。』：イイネ
- ・『言葉以上に純然たる事実として、足がここにある。』：人間は言葉メインなので、そういうのいいよね。獣人のどうしても誤魔化せない尻尾や耳も好き。

書くところなかったのに10段階評価の理由

表現やアイデアはとても面白かったです。

物語の終わり方が余韻を持たせたかったのか、それがマイナスになっているような気がします。

家族の人魚とは違い、陸の人間に恋をして、恋を殺すために陸に上がり、いずれは海に帰るのか？別の人間を好きになるのか？ただ、恋した人に幻滅したシーンを見ると、人間に恋はしなさそうと思いました。他の種族を恋の対象としている人魚にとって、相手を知ることが少ないことが恋になってるのかも感じました。理想化というか、人魚だからそれぞれに恋をできた、初めから人間だったり、タコだったりナマコだったりシーラカンスだったりしたら、恋をしなかったのかもしれない。というのを読了後すごく感じました。

テーマは幻滅かなと思いましたが、この終わり方ならテーマを理想化した方がいいのかなとも思いました。

誤字脱字

直せそうなところ・引っかかったところ

- ・『大きくヒレを蹴って』：「を」が引っ掛かります。「で」の方がいいのでは...？ただ、助詞詳しくなくて、手元の本でもしっかりとした理由づけができなかったので話半分で
 - ・『だが、異種からはヒレの交換について』：交換（手元の辞書では取り替える、WEB辞書でも取り替えるが先頭にきます<https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E4%BA%A4%E6%8F%9B/>）ヒレは道具のように取り替えるものではなく、自分で操作できないものだと言われていることより別の表現にした方がいいかと思います。
- 例：生え替わり、変態（生物用語？おたまじゃくし→かえる）
- ・『服を着て、靴を履いて、そうしたら陸場を歩いても』：陸場、ネット検索では出てこなかったのですが、誤字でしょうか？
 - ・ヒレの独自設定面白くていいです！
- ただ、最初にヒレが出てきた時にはもう新しいヒレ（足）の状態だったのでは？
- 『昨夜十六歳になった瞬間に、わたしのヒレは、生まれた時から決まっていたみたいに自然に人間の足に変わった。』
- であれば、初出の時に新しいヒレなどしておき、伏線としてもいいのでは？
-

タイトルいつも悩むので案があったら提案いただけると嬉しいです！

小説で、絶対必須なのが、タイトルと本文だと思います。
公募の要項にあらすじを書くようなものもあると聞きます。
となると、タイトルも公募では評価の対象なのではと思います。
「人魚の恋の殺し方」という題でこの小説を読みましたが、主人公の人魚は陸に新たな恋を探しに行くのよりも、これまでの恋を殺すために陸に行くのだとタイトルから読み導きます。
私もタイトル迷う派だと思うのですが、連載を書いていないこともあり、完成してからタイトルをつけることがほとんどです。その際には、小説で一番伝えたかったことに引っ掛けてタイトルを決めた時が一番しっくりします。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム